

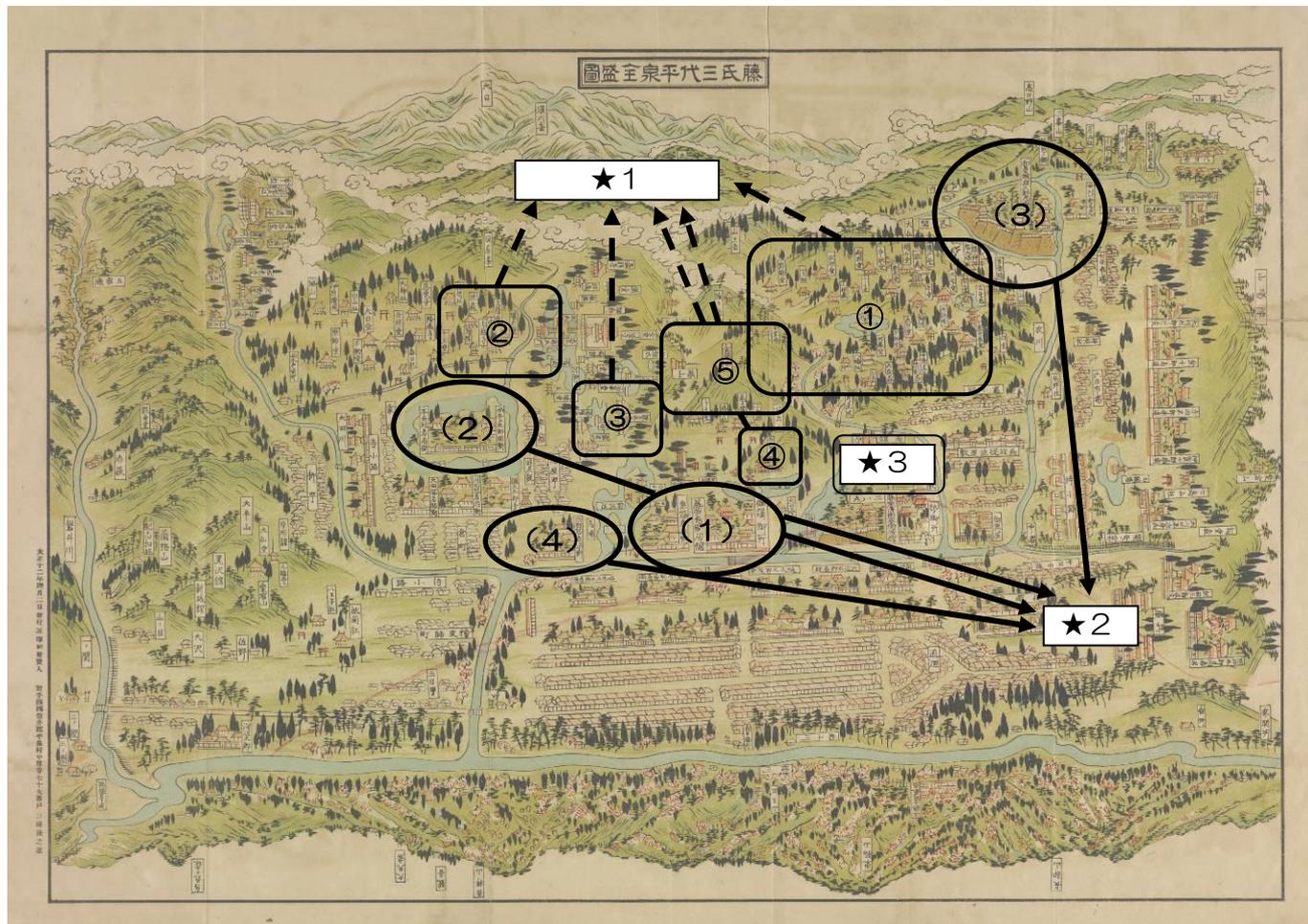
授業で使える当館所蔵地図

No. 40 『藤原三代平泉全盛図』

発行年：1923（大正12）年

サイズ：40×55cm

作者：三浦隆之進



【解説】

奥州藤原氏が栄えた平泉について描かれている。資料には、釈迦堂、薬師堂、阿弥陀堂や六日市場、十日市場、柳之御所（政庁）などが見られることから、平泉が東北地方の政治・経済の中心であり、「浄土」を目指した都市づくりが行われていたと考えられる。また、資料には奥州藤原氏の全盛を築いた藤原秀衡居館やその一族の館だけでなく、源義経の居館もある。このことは、奥州藤原氏と源義経の深いかかわりがあったことを推測することができる。

★1 平泉

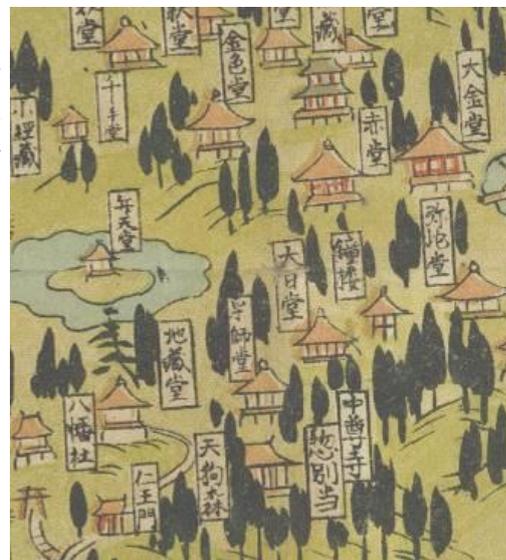
2011年、「平泉」は東北地方初の世界文化遺産に登録された。中でも「中尊寺金色堂」が有名であるため、中尊寺金色堂が世界文化遺産であると勘違いされやすいが、登録の正式名称は「平泉 仏国土（浄土）を表す建築、庭園及び考古学的遺産群」であり、対象は①中尊寺（金色堂、金色堂覆堂、経蔵、大池跡）②毛越寺（庭園、常行堂）③観自在王院跡④無量光院跡⑤金鶏山の5か所である。

①中尊寺（ちゅうそんじ）

後三年合戦が終わり、奥羽における対立が安定していった12世紀初頭に藤原清衡は平泉に移り住んだ。その奥州藤原氏初代藤原清衡によって中尊寺は造営された。内陣は全体を金箔、ガラス玉、夜光貝、象牙などで作られており、藤原氏の経済力の高さが分かる。

②毛越寺（もうつうじ）

奥州藤原氏二代基衡が造営を始め、三代秀衡の時代に伽藍が完成した。地図中にもある「金堂円隆寺（②の東側）」前の大泉池を中心に展開される庭園は極楽浄土を模している。現在は跡地しかない。



③観自在王院（かんじざいおういん）

二代基衡の妻の建立と伝えられており、浄土庭園として世界文化遺産を構成している。

④無量光院（むりょうこういん）

三代秀衡が宇治平等院鳳凰堂を模して造営された寺院である。浄土思想が取り入れられた平等院鳳凰堂を模して建立することは、秀衡にも浄土思想と建立できるだけの権力があつたことが分かる。こちらも現在は跡地しかない。

⑤金鷄山（きんけいざん）

山頂には歴代が経塚を築いており、11世紀初めから流行した弥勒信仰の現れである。

★2 奥州藤原氏

(1) 藤原秀衡居館と泉冠者泰衡

- 藤原秀衡・・・二代基衡の嫡男で、奥州藤原氏の全盛期を築き、平清盛と同時代を生きた人物。
- 泉冠者泰衡・・・三代秀衡の次男であるが、正室の子であり、嫡男であるため、家督を継ぎ、奥州藤原氏の四代目となる。頼朝と対立した義経を襲撃した自害に追い込む。そののち、頼朝に義経をかまくらしたことを口実に攻められ、大敗し奥州藤原氏は滅亡する。

(2) 西木戸太郎国衡と本吉冠者高衡

- 西木戸太郎国衡・・・三代秀衡の長男であるが、庶子であったため家督を継ぐことはできなかった。
- 本吉冠者高衡・・・藤原高衡のこと。三代秀衡の四男。

(3) 和泉城三郎忠衡・・・藤原忠衡のこと。三代秀衡の三男。

(4) 出羽冠者通衡・・・藤原通衡のこと。三代秀衡の五男。

★3 源義経（居館）

源頼朝の弟で、源平の争乱で活躍し、壇ノ浦の戦いで平氏を滅ぼした。平氏を滅ぼした後、頼朝と対立して平泉の藤原秀衡を頼り逃れたが、秀衡の死後、子の泰衡に攻められて衣川の戦いで自害した。地図中では「源義経居館」の周辺には「弁慶屋敷」もある。

【活用の例】（中学校社会科歴史的分野「武士の台頭と鎌倉幕府」、高等学校日本史Bで活用ができる。）

○ 奥州藤原氏がどこで栄えたのかを読み取ることができる。

→『藤原三代平泉全盛図』は北が上として作成された地図ではない。地図の中にある「衣川（ころもがわ）」「北上川」「磐井川（いわいがわ）」を基に、この地図が地図帳ではどこに当たるのかを探し、奥州藤原氏がどこを中心にして栄えていたのかを読み取ることができる。

○ 奥州藤原氏と源義経の関係性を考察することができる。

→地図からは、奥州藤原氏初代清衡、二代基衡居館、柳之御所（政庁）のすぐ近くに源義経居館があることや周辺には弁慶屋敷や義経従臣屋敷があることを読み取ることができる。それに対して、奥州藤原氏の家臣の館は義経達よりも遠い所に位置している。このことから、源義経が奥州藤原氏に大切に扱われていたことを考察することができる。

○ 当時の家督相続について考察することができる。

→奥州藤原氏三代秀衡居館の隣に、泉冠者泰衡の館があり、少し離れた所に西木戸太郎国衡の館があることを読み取ることができる。藤原国衡は秀衡の長男（庶子）で、泰衡は次男（嫡男）である。長男ではなく、次男の泰衡が四代目となっていることや秀衡の近くに館を築いていることから、長男であっても庶子では家督を継ぐことができず、嫡男が優遇され、家督を相続できることを考察することができる。

○ 奥州藤原氏が「浄土」を目指した都市づくりをしていることを読み取ることができる。

→資料には「〇〇寺」や「〇〇堂」が多く存在しており、それらを奥州藤原氏が建立している事実から仏教に力を入れていたことが分かる。その中でも、「薬師堂」「弥勒堂」「釈迦堂」などがあることから、「浄土」を目指し、現世に「浄土」を表そうとしていることを考察することができる。

【参考文献】

- 平泉町世界遺産推進室ホームページ
- 瓜生中・渋谷申博（1994）『日本の寺院を知る事典』日本文芸社
- 大矢邦宣（2013）『図説 平泉 浄土をめざしたみちのくの都』河出書房新社
- 八重樫忠郎（2015）『北のつわもの都 平泉』新泉社